

みやぎ経済月報

(2005年8月)

平成17年8月25日

目次

本県の経済概況	1
主な指標の動き	3
鉱工業生産指数	6月	3
大口電力使用量	6月	3
新設住宅着工戸数	6月	4
公共工事請負金額	7月	4
大型小売店販売額	6月	5
乗用車新車登録台数	6月	5
消費者物価指数	7月	6
求人倍率	6月	6
所定外労働時間	6月	7
実質賃金指数	6月	7
企業倒産	7月	7
宮城県景気動向指数(概要)	8
全国・東北等の景況	9
主要経済指標	12

利用される方に

この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によったもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

統計表の符号は次のとおりです。

- 「 」 負数
- 「...」 数字が得られないもの
- 「-」 該当数字がないもの
- 「p」 速報値または暫定値

みやぎ経済月報は毎月最終月曜日頃に公表しています。

内容についてのご照会、ご意見は、
宮城県企画部統計課(分析所得班)
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022-211-2453(直通)
にご連絡下さい。

本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

宮城県統計課ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/toukei/>



国勢調査は
赤ちゃんから大人まで
みんなが参加するんだよ。



国勢調査

平成17年10月1日(土)

本県の経済概況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨は変化方向)

6月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種では高水準の生産が続いているが、全体の基調としては横ばい傾向が続いている。住宅投資は貸家、分譲住宅に動きがみられるものの、持家は低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は低調に推移しているが、一部で足もとに動きがみられる。企業倒産は、件数は減少し小康状態となったが、負債総額は大型倒産の影響を受け高水準となった。雇用は緩やかながらも改善の動きが続いている。

このように、景気は依然として一服感がみられるなかで、緩やかな持ち直しの動きに鈍化傾向がみられる。



[前月の概況]

5月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種では高水準の生産が続いているが、全体の基調としては横ばい傾向が続いている。住宅投資は貸家、分譲住宅に動きがみられるものの、低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は低調に推移しているが、一部で足もとに動きがみられる。企業倒産は、件数は増加し、負債総額は減少となった。しかし負債総額はやや高めの水準となった。雇用は緩やかながらも改善の動きが続いている。

このように、景気は依然として一服感がみられるなかで、緩やかな持ち直しの動きに鈍化傾向がみられる。

⇨は月の変化方向。



鉱工業生産指数(6月)は、前年同月比が3か月ぶりに上昇となった。前月比は、2か月連続の低下となった。大口電力使用量(6月)は、前年同月比が2か月連続の増加となった。



新設住宅着工戸数(6月)は、前年同月比が貸家で5か月連続の増加、分譲住宅は2か月連続の増加となった。持家は4か月連続の減少となった。

全体では3か月ぶりに増加となった。



公共工事請負金額(7月)は、前年同月比が国は2か月ぶりに増加となった。県は8か月連続の減少、市町村は2か月連続の減少となった。全体では2か月ぶりに増加となった。



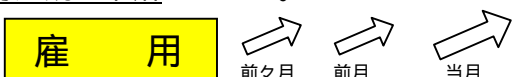
大型小売店販売額(6月、百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同月比が16か月連続の減少となった。百貨店は前年同月比が5か月連続の減少、スーパーは前年同月比が33か月連続の減少となった。



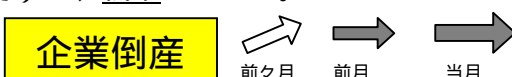
乗用車新車登録および届出台数(6月・普通、小型、軽自動車の合計)は、前年同月比が3か月連続の増加となった。前年同月比は小型車が3か月連続の増加、軽自動車も3か月連続の増加となった。普通車は2か月ぶりに減少となった。



仙台市消費者物価指数(7月)は、生鮮食品を除く総合指数は、前年同月比が2か月連続の下落となった。総合指数は、前年同月比が2か月連続の下落となった。



求人倍率(6月)は、有効は2か月連続の上昇となった。新規は3か月ぶりに低下となった。所定外労働時間(製造業)(6月)は、前年同月比が減少となった。実質賃金指数(同)(6月)は、低下となった。



企業倒産(7月)は、件数は前年同月比が2か月ぶりに減少となった。負債総額は前年同月比が6か月ぶりに増加となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は1件発生し、3か月連続の発生となった。

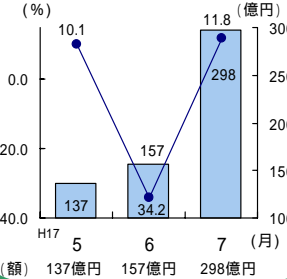
直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

については、前月差

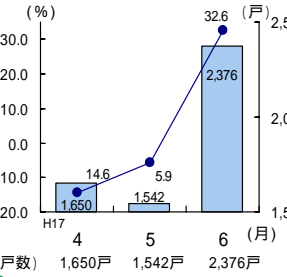
■ は実数値(左目盛)
●● は前年同月比の推移(右目盛)

投資

公共工事請負金額

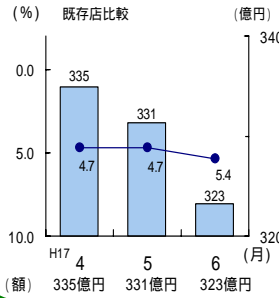


新設住宅着工戸数

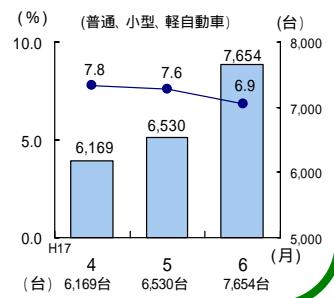


消費

大型小売店販売額

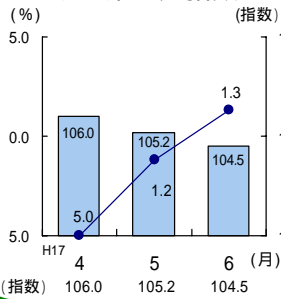


乗用車新車登録台数

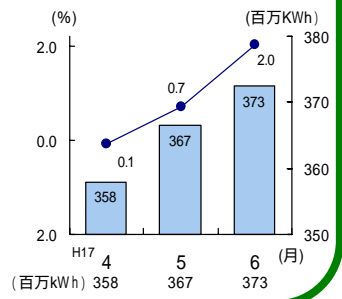


生産

鉱工業生産指数

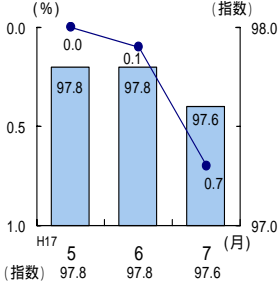


大口電力使用量

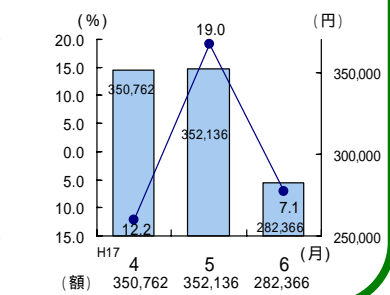


家計

仙台消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合)

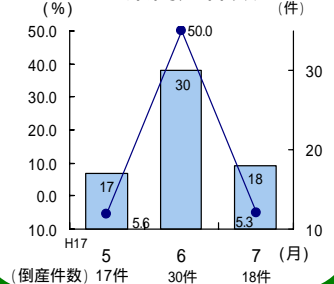


勤労者世帯消費支出 (仙台市)



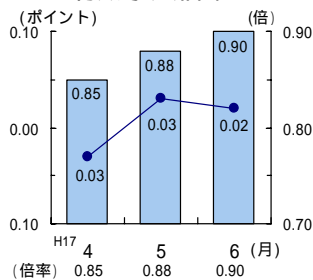
企業倒産

企業倒産件数

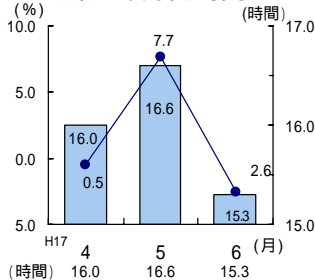


雇用

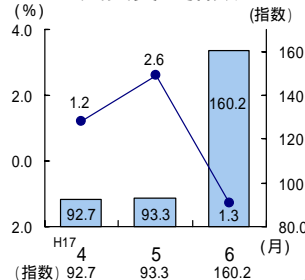
有効求人倍率



所定外労働時間



実質賃金指数



主な指標の動き

1 生産

(1) 鉱工業生産指数

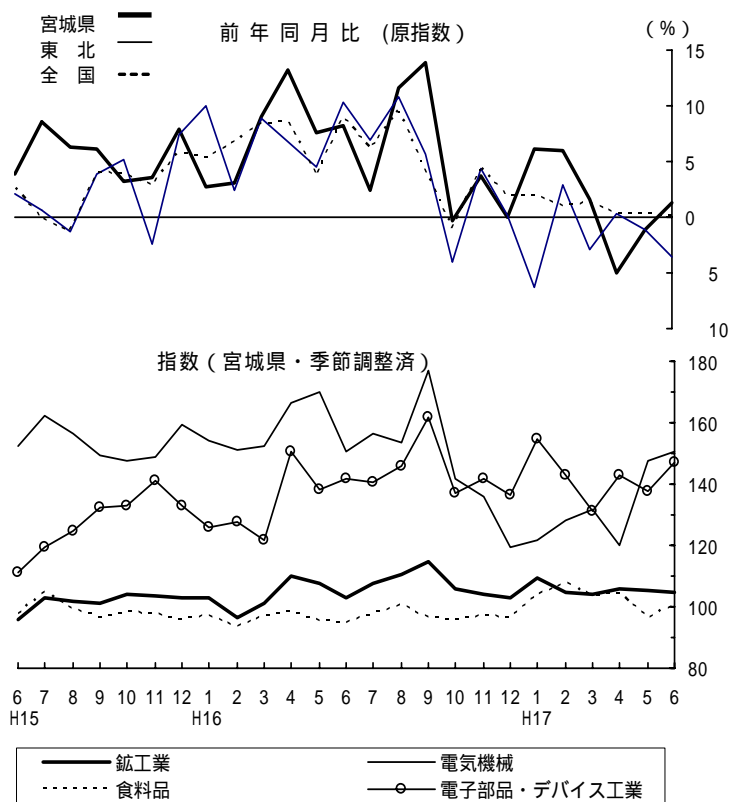
6月の鉱工業生産指数(季節調整値、平成12年=100)は104.5(速報値)で、前年同月比(原指数比較)1.3%の上昇となり、3か月ぶりに上昇となった。

業種別の前年同月比をみると、食料品工業、一般機械工業、電子部品・デバイス工業など10業種が上昇となった。

一方で、情報通信機械工業、精密機械工業など9業種が低下となった。

なお、前月比は0.7%の低下となり、2か月連続の低下となった。

(資料：県統計課)

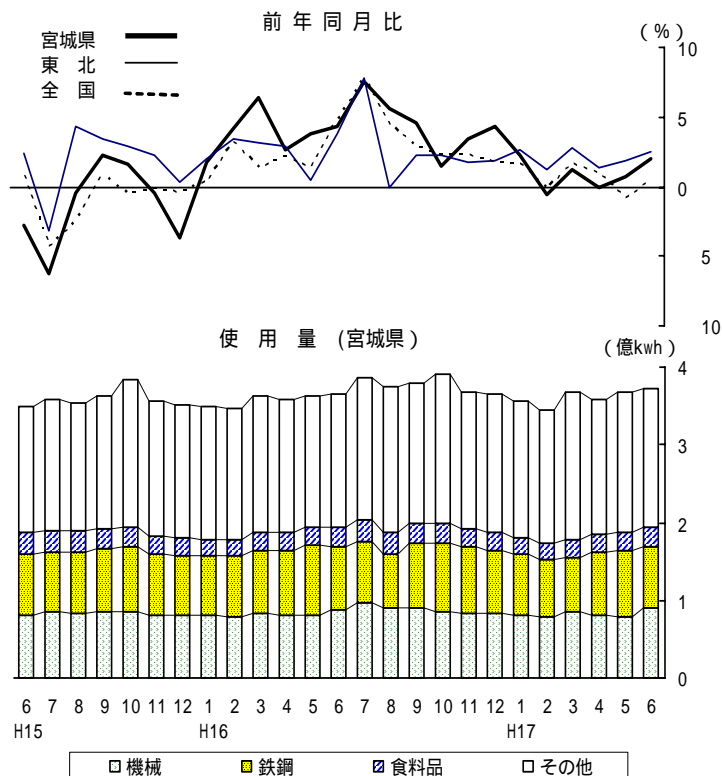


(2) 大口電力使用量

6月の大口電力使用量(契約電力500kw以上)は3億7,258万kWhで、前年同月比2.0%の増加となり、2か月連続の増加となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると、食料品分野は5.3%の増加となり、8か月連続の増加となった。機械分野は1.3%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。鉄鋼分野は3.7%の減少となり、5か月連続の減少となった。

(資料：東北電力(株))



2 投 資

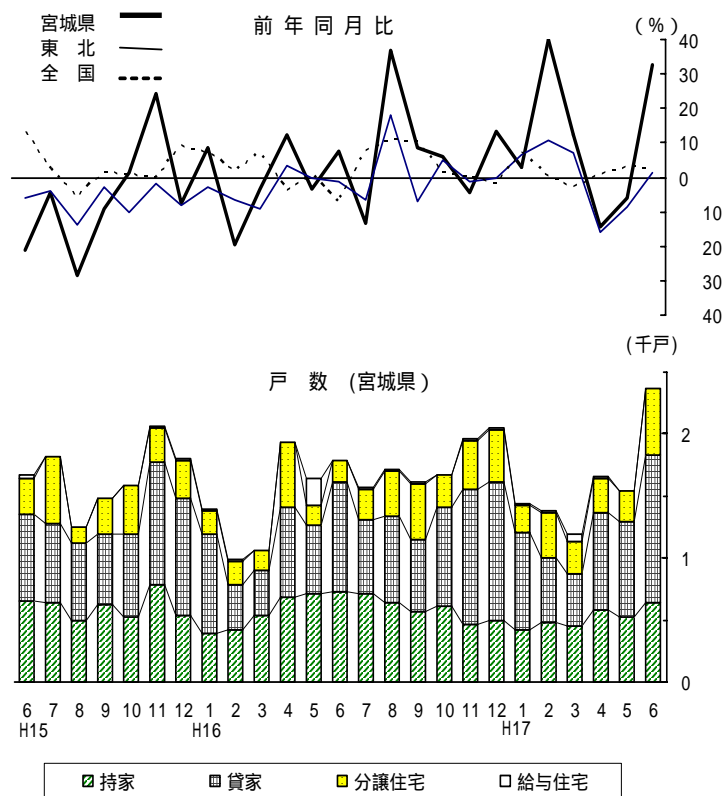
(1) 新設住宅着工戸数

6月の新設住宅着工戸数は2,376戸で、前年同月比32.6%の大幅な増加となり、3か月ぶりに増加となった。

利用関係別に前年同月比をみると、貸家は34.6%の増加となり、5か月連続の増加となった。分譲住宅は206.3%の増加となり、2か月連続の増加となった。

一方で、持家は11.7%の減少となり、4か月連続の減少となった。

(資料：国土交通省)

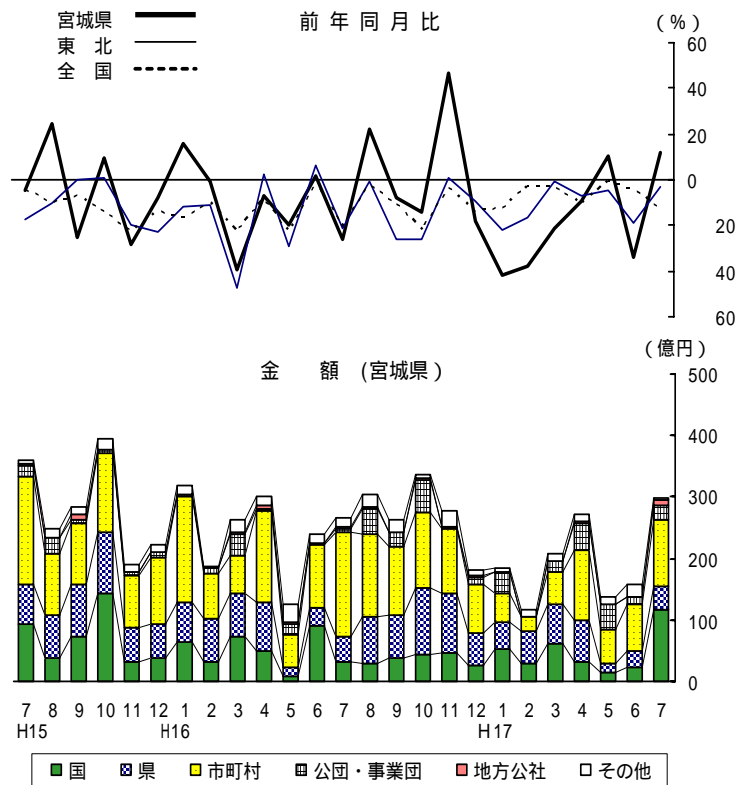


(2) 公共工事請負金額

7月の公共工事請負金額は297億8,400万円で、前年同月比11.8%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は250.9%の増加となり、2か月ぶりに増加となった。県は4.7%の減少となり、8か月連続の減少となった。市町村は35.3%の減少となり、2か月連続の減少となった。

(資料：東日本建設業保証(株))



3 消 費

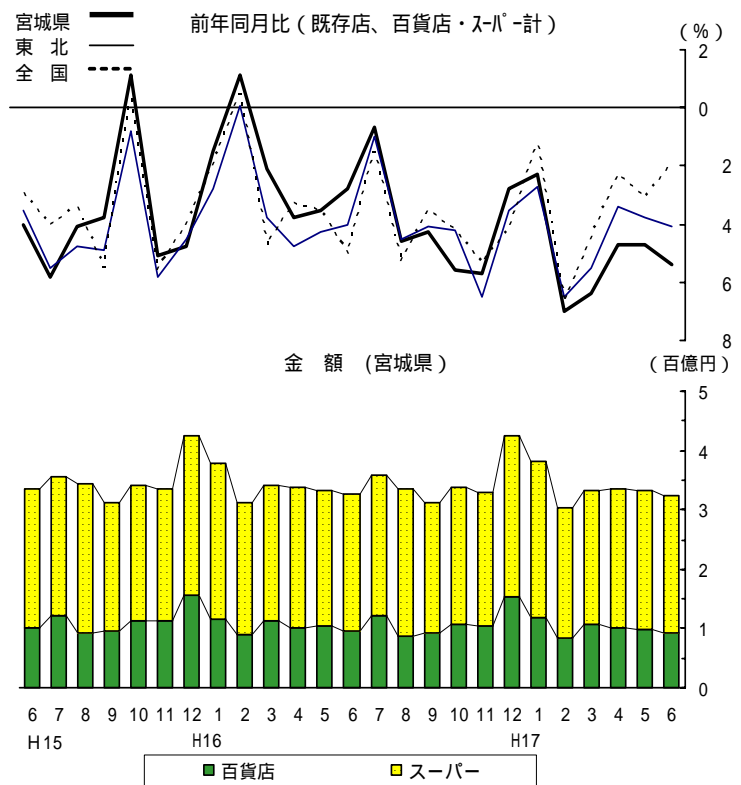
(1) 大型小売店販売額

6月の大型小売店販売額（百貨店・スーパーの売上総額）は323億1,900万円で、前年同月比（既存店比較）5.4%の減少となり、16か月連続の減少となった。

業態別に前年同月比（同）をみると、百貨店が4.1%の減少となり、5か月連続の減少となった。スーパーは5.9%の減少となり、33か月連続の減少となった。スーパーの全店舗比較では0.5%の増加となり、2か月連続の増加となった。

品目別に前年同月比（既存店比較）をみると、飲食料品が12か月連続、衣料品が11か月連続、身回り品が5か月連続で、それぞれ減少となった。

（資料：東北経済産業局）

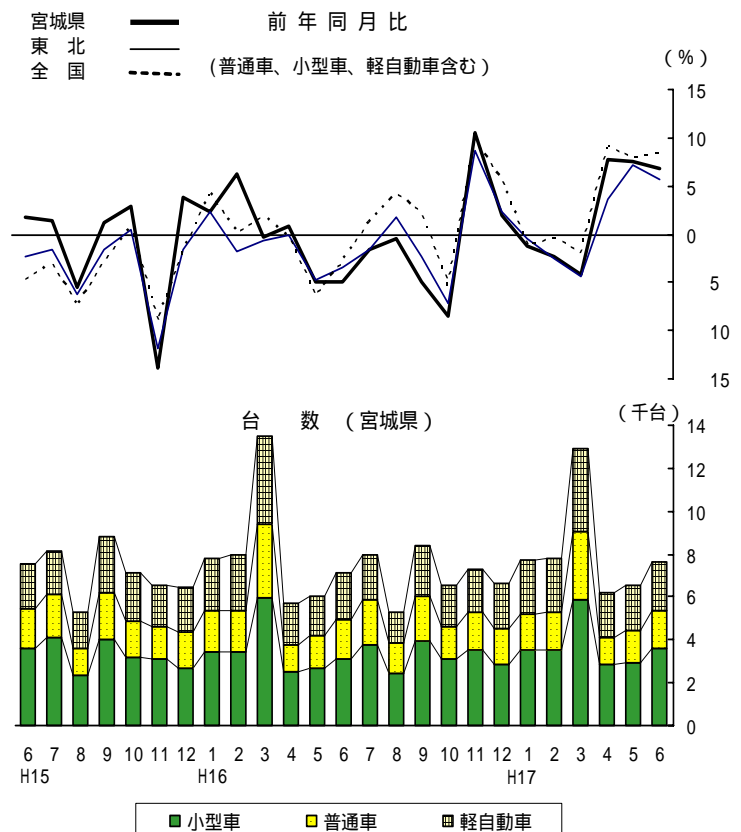


(2) 乗用車新車登録台数

6月の乗用車新車登録及び届出台数（普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計）は7,654台で、前年同月比6.9%の増加となり、3か月連続の増加となった。

車種別に前年同月比をみると、普通車（排気量2,000cc超）は3.6%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。小型車（排気量2,000cc以下）は14.8%の増加となり、3か月連続、軽自動車は4.3%の増加となり、3か月連続の増加となった。

（資料：自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車連合会）



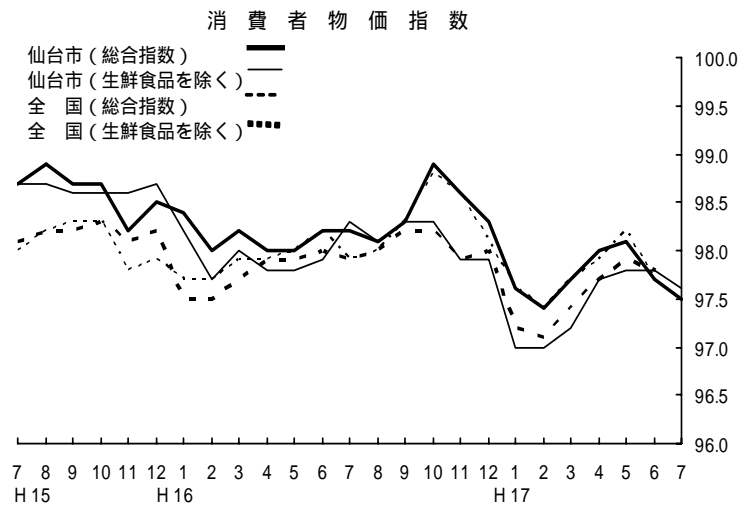
4 物 価

7月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成12年=100、中旬速報値)は97.6で、前年同月比0.7%の下落となり、2か月連続の下落となった。また、前月比は0.2%の下落となり、6か月ぶりに下落となった。

総合指数(同)は97.5で、前年同月比0.7%の下落となり、2か月連続の下落となった。また、前月比は0.2%の下落となり、2か月連続の下落となった。

10大費目別に前年同月比をみると、光熱・水道などが上昇し、食料、住居、被服及び履物、交通通信などが下落した。

(資料:県統計課)



5 雇 用

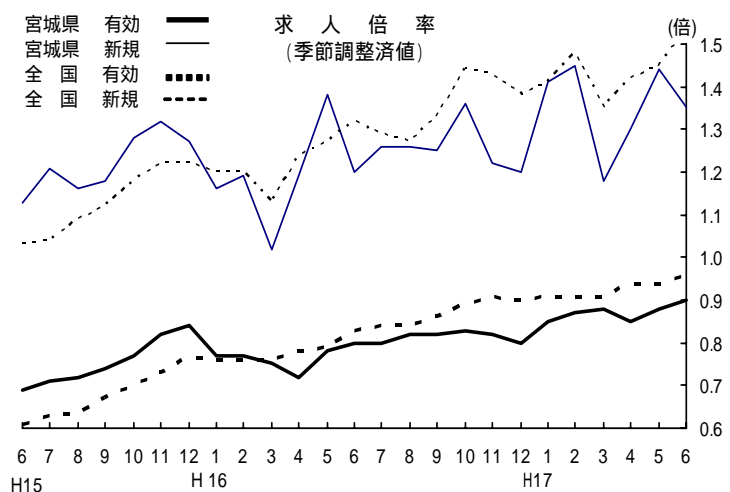
(1) 求人倍率

6月の有効求人倍率(求人数/求職者数、季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は0.90倍で、前月を0.02ポイント上回り、2か月連続の上昇となった。新規求人倍率(同)は1.35倍で、前月を0.09ポイント下回り、3か月ぶりに低下となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効が前年同月比13.2%の増加となり、14か月連続の増加となった。新規は前年同月比12.1%の増加となり、6か月連続の増加となった。

産業別の新規求人数(一般)では製造業は3か月連続、建設業は6か月連続の増加となった。サービス業は2か月ぶりに増加となった。全体では8か月連続の増加となった。

(資料:宮城労働局)

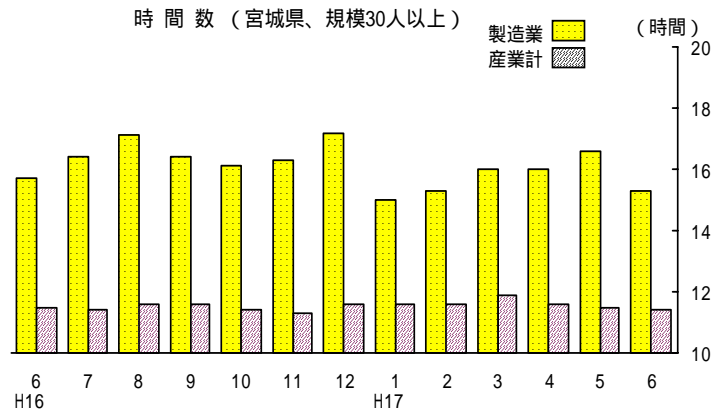


(2) 所定外労働時間

6月の所定外労働時間（製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間）は15.3時間で、前年同月比2.6%の減少となった。

調査産業全体（事業所規模30人以上、1人平均月間）では所定外労働時間は11.4時間で、前年同月比0.9%の減少となった。

（資料：県統計課）

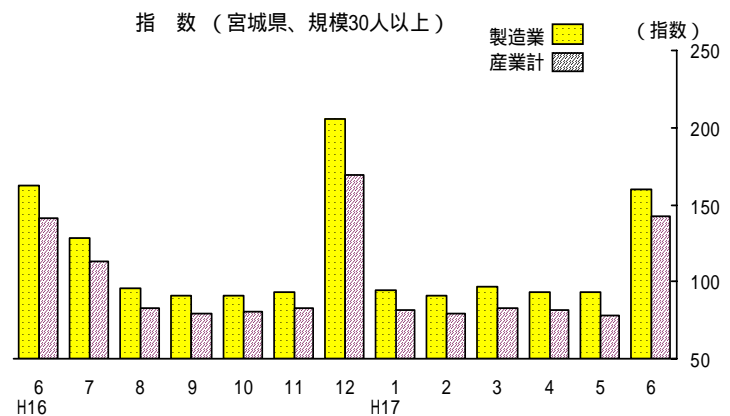


(3) 実質賃金指数

6月の実質賃金指数（平成12年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模30人以上）は160.2で、前年同月比1.3%の低下となった。

調査産業全体では142.3で、前年同月比0.4%の上昇となった。

（資料：県統計課）

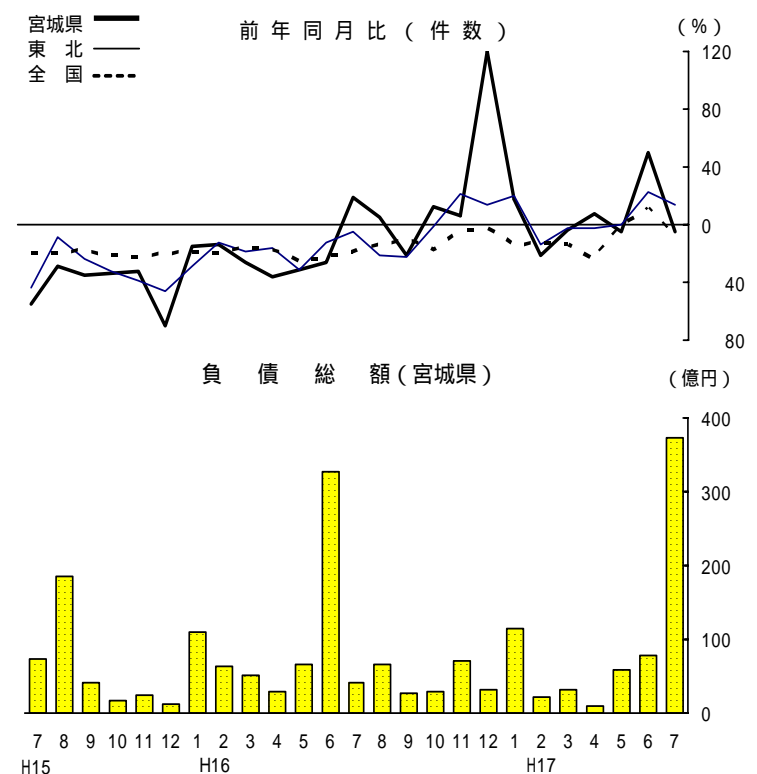


6 企業倒産

7月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は18件で前年同月比5.3%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。負債総額は今年最大の374億3,100万円で、前年同月比805.9%の増加となり、6か月ぶりに増加となった。これは、負債総額が361億6,500万円の大型倒産（負債総額10億円以上）が1件発生したためである。大型倒産は3か月連続の発生となった。

このうち、不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、赤字累積）は16件で、構成比は88.9%となった。

（資料：(株)東京商工リサーチ）



宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

6月の景気動向指数は、先行指数55.6%、一致指数50.0%、遅行指数 20.0%となった。
 先行指数は4か月連続で50%を上回った。一致指数は3か月連続で50%を下回った後、50%になった。遅行指数は12か月振りに50%を下回った。

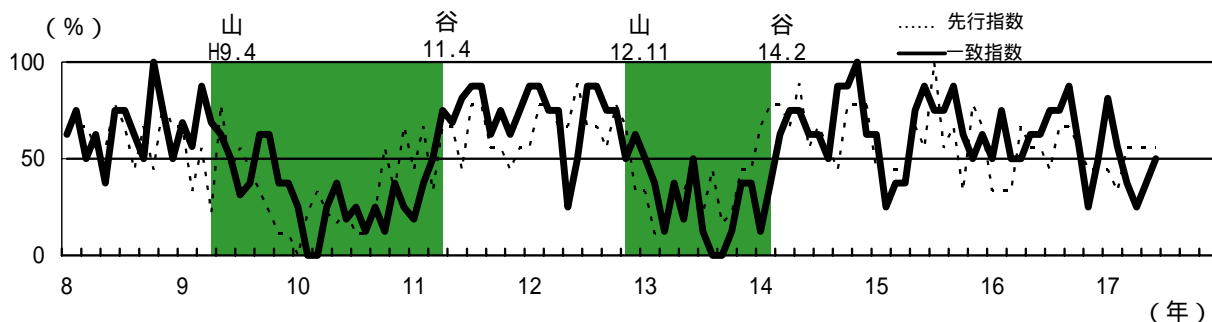
2 景気動向指数変化方向表

系列名		平成16年					17年					
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
先行系列	1 新規求人数	+	+	-	+	-	+	-	+	-	-	+
	2 所定外労働時間指数(製造業)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	-
	3 生産財生産指数	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	+
	4 自動車新規登録台数	+	+	-	+	+	+	-	-	-	+	+
	5 新設住宅着工床面積	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+
	6 建築着工床面積	-	-	+	+	+	-	-	+	+	+	+
	7 企業倒産件数	-	-	+	-	+	-	+	+	+	-	-
	8 全貸出残高	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-
	9 中小企業業界景況感	+	+	+	-	-	-	-	-	+	+	-
	拡張系列数	6.0	6.0	5.0	4.0	4.0	4.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
先行指数(DI)		66.7	66.7	55.6	44.4	44.4	44.4	33.3	55.6	55.6	55.6	55.6
一致系列	1 雇用保険受給者実人員	-	+	+	+	+	+	+	-	-	+	-
	2 有効求人倍率	+	+	0	+	+	+	0	-	-	-	+
	3 人件費比率(製造業)	+	+	-	-	+	0	-	-	-	-	+
	4 鉱工業生産指数	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	+
	5 投資財生産指数	+	+	+	-	+	+	-	-	+	+	-
	6 大口電力使用量	+	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-
	7 大型小売店販売額	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-
	8 輸入通関実績	+	+	+	-	-	-	+	-	+	-	+
	拡張系列数	6.0	7.0	4.5	2.0	4.0	6.5	4.5	3.0	2.0	3.0	4.0
	採用系列数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
一致指数(DI)		75.0	87.5	56.3	25.0	50.0	81.3	56.3	37.5	25.0	37.5	50.0
遅行系列	1 常用雇用指数(製造業)	-	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+
	2 消費者物価指数(仙台市)	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-
	3 勤労者世帯消費支出(＼)	+	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-
	4 営業倉庫保管残高	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-
	5 法人事業税収入	+	-	+	+	+	-	+	+	+	-	-
	拡張系列数	3.0	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0	1.0
採用系列数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
遅行指数(DI)		60.0	80.0	80.0	60.0	60.0	60.0	60.0	80.0	80.0	60.0	20.0

(注) 1 季は季節調整済(センサス局法 - 11)。前は前年同月比。逆は逆サイクル。

2 各系列の変化方向は、3か月前との比較による。

3 景気動向指数グラフ



全国・東北等の景況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨は変化方向)

1 全国の景況

月例経済報告(内閣府)  8月9日 [<http://www.cao.go.jp/>]

景気は、企業部門と家計部門がともに改善し、緩やかに回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は緩やかに増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出は持ち直し、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが持続する中で、家計部門も改善しており、世界経済の着実な回復に伴って、景気回復は底堅く推移すると見込まれる。一方、情報化関連分野で見られる在庫調整の動きや原油価格の動向等には留意する必要がある。

7/12 景気は、弱さを脱する動きがみられ、緩やかに回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は緩やかに増加している。
- ・個人消費は、持ち直している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが持続する中で、家計部門も改善しており、世界経済の着実な回復に伴って、景気回復は底堅く推移すると見込まれる。一方、情報化関連分野で見られる在庫調整の動きや原油価格の動向等には留意する必要がある。

金融経済月報(日本銀行)  8月10日 [<http://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、IT関連分野における調整が進むもとで、回復を続けている。


輸出は緩やかながらも増加しており、生産も、IT関連分野の在庫調整が進むもとで、振れを伴いつつ増加傾向にある。設備投資は、高水準の企業収益を背景として、増加を続けている。また、雇用面の改善や賃金の持ち直しから、雇用者所得は緩やかに増加しており、そのもとで個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移しており、公共投資は基調としては減少傾向にある。

先行きについても、景気は回復を続けていくとみられる。

7/14 わが国の景気は、IT関連分野における調整の動きを伴いつつも、回復を続けている。輸出は伸び悩んでいるが、IT関連分野の在庫調整が進むもとで、生産は緩やかな増加傾向にある。企業収益が高水準を続ける中、企業の業況感にも再び改善がみられ、設備投資は増加を続けている。また、雇用面の改善や賃金の下げ止まりから、雇用者所得は緩やかながら増加しており、そのもとで個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移しており、公共投資は基調としては減少傾向にある。

先行きについても、景気は回復を続けていくとみられる。

2 東北の景況

東北経済産業局管内の経済動向(東北経済産業局)  8月15日 [<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

- ・鉱工業生産は、横ばい傾向で推移しているものの、一部に回復の動きがみられる。
- ・個人消費は、全体として弱含んでいる。
- ・住宅着工戸数は、下げ止まりの動きから、このところ再び低調となっている。
- ・公共投資は、引き続き低調な動きとなっている。

- ・設備投資は、製造業を中心に積極的な投資の動きがみられる。
- ・雇用は、地域差はあるものの、緩やかな改善の動きがみられる。
- ・企業倒産は、件数、負債総額が増加しているが、基調としては小康状態を保っている。

管内の景気動向は、住宅着工、公共投資は低調、個人消費も全体として弱含んでいる。一方、鉱工業生産は横ばい傾向で推移しているものの一部に回復の動き、設備投資は製造業を中心に積極的な投資の動き、雇用にも改善の動きがみられる。

このように、全体としては横ばいのなかで一部に改善の動きもみられている。

7/20 管内の景気動向は、住宅着工、公共投資は低調、個人消費も全体として弱含んでいる。一方、鉱工業生産は横ばい傾向で推移しているものの一部に回復の動き、設備投資は製造業を中心に積極的な投資の動き、雇用にも改善の動きがみられる。

このように、全体としては横ばいのなかで一部に改善の動きがみられている。

管内の金融経済概況（日本銀行仙台支店）



7月29日

[<http://www3.boj.or.jp/sendai/index.html>]

管内（宮城、岩手、山形）経済は、一部に改善の動きがみられるが、横這い圏内を脱するまでには至っていない。

すなわち、最終需要動向をみると、個人消費は、雇用・所得の改善が全国比見劣りする中、業態・品目のばらつきを伴いつつ、全体としては一進一退の動きを続けている。住宅投資は横這い圏内にある一方、公共投資は減少傾向にある。

この間、生産動向をみると、自動車関連や紙・パなどで高操業が続いている中で、IT関連財も在庫調整は進展しており、回復に向けた基盤が整いつつある。

7/1 管内経済は、企業の業況感改善など一部に明るい動きもみられるものの、依然横這い圏内から脱し切れていない。最終需要の動向をみると、2005年度の設備投資は、製造業を中心に高水準であった前年度実績を更に上回り、3年連続の増加計画となっている。また、個人消費も、雇用・所得の動きが鈍い中、業態間のばらつきがみられ、全体として一進一退の域を脱していない。住宅投資は横這い圏内にある一方、公共投資は減少傾向にある。この間、生産動向をみると、自動車関連や一部食料品では高操業が続いている一方、IT関連財は在庫調整の進捗に伴い生産面での下押し圧力が減退している。

3 宮城の景況

県内景気の動き（七十七銀行）



8月22日

[<http://www.77bank.co.jp>]

6月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、一部に上向きの動きがみられるものの、依然として足踏み状態となっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では引続き弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に上向きの動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。住宅投資は一部に増加の動きがみられるが、公共投資は引続き低調に推移している。また、雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

この間、企業の景況感は改善しているが、業況については、製造業では持ち直しの動きがみられる一方、非製造業では悪化に歯止めがかからない状況となっている。

7/25 5月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、持ち直しの動きが鈍化しており、足踏み感がうかがわれるものとなっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では引続き弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に上向きの動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。公共投資は引続き低調に推移しており、住宅投資は横這い圏内の動きとなっている。また、雇用情勢は、なお厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。